
バッドエンド

遙樺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バッドエンド

【ZINE】

Z32771

【作者名】

遙樺

【あらすじ】

親友達と平穏な日常を過り、采原藍佳。ある日、親友の新島沙紅の家族が殺されてしまう。

その事から、次第に狂っていく沙紅…

沙紅を救うため、沙紅の幼馴染で友達の晴と共に藍佳の持つ超能力を使い助け出す。

悲劇を起こさないために

足掻き続ける…

平穩な日常

私、采原藍佳には、不思議な力があります。
人に触れる事で、心が読める。

俗に言う、テレパシーというものを持っています。

「藍佳ーおはよー！」

後ろから話しかけてきたのは親友の新島沙紅。

「沙紅、おはよー！」

「あ、藍佳。」

今日も、放課後用事在るから、一人で帰つて。

ホント、ゴメンー！」

顔を下げる、手を合わせる沙紅に

「全然大丈夫だよ！」

沙紅、気にしなくていいの。

晴と立ち食いでもして帰るだろ！」

「あはは…晴つてば。

そうだ今度、晴に奢つて貰おつかな？」

財布が空だと叫んでいた晴に向かつて軽く手を合わせた。

前に、見えてきた学校。

予鈴、ギリギリだと気づいた私達は、急いで校門へ走り出した。

何とかギリギリで教室に着いた私達。

「うわ、朝から汗だくだく…」

「鞄持つて走るのほ、やせっぱ辛いよ」

走ったせいで疲れた私達は眩いてると

「朝から、おつかれー。

お一人さん」

暢気な声が聞こえ、すぐに沙紅はその元にはしりだし

「おつかれー、じゃ無いわー！」

先行くなら、そつと…！

お陰で遅れかけたわ！

バカ晴…！

暢気な声の主は、私達のクラスメイトで、沙紅の幼なじみの、佐久間晴。

「て沙紅、キヤラ変わってる…」

「沙紅う…

藍佳ちゃんが驚いて固まつてゐるよ」

「藍佳？」

沙紅は、私のおでこに強力な（ここに重要）「トロッパン」を繰り出した。

「いだつ！」

沙紅の意地悪…」

スッゴク、痛い…
ジンジンある。

「晴！

あんたもだつ！」

沙紅は晴にもデ「ゴジン」をする。

「いだつ！」

沙紅、昔はそんな事しなかつたよね…
それつ！」

お返しに晴が沙紅のこめかみをグリグリし出した。

「あー、すつきりした」

「晴のバカ…」

「沙紅、落ちつこ…」

そんな朝の賑わいが続きながら、HRが始まっていたために、三人そろって先生に怒られる事になった。

背伸びしながら体をほぐす。

疲れた…

「藍佳、晴。

また明日〜！」

荷物を纏めた沙紅が私たちに向かって言ひ。

「「また明日ね」」

「うん！」

「藍佳ちゃん。

何か食べにいく?」

「うん。いいね」

「よしに行こう。」

「嘘でしょ……」

始まりはすぐそばに、いや……
すでに始まっていた事に、私達は気づいてなかつた。

悲劇への物語 を……

変えられない結末へ、
足掻き続けるために……

平穏な日常（後書き）

はじめまして、初めて書いた作品ですが、こんな暗そつた話ですが、お読みくださいありがとうございます。

次話から本格的になります。

完成できるよう頑張りますので、よろしくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3277i/>

バッドエンド

2010年10月9日07時44分発行